

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

役職	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
会長	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 宗孝 小林 映喜	代表取締役社長 所長	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
副会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲 小林 克也	代表取締役社長	高圧ガス、溶接材料 機械、工具
幹事	大日本塗料(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	真鍋 育功 根本 隆史	所長 主任	全構協指定塗料 錆止め塗料
幹事	(株)アマダマシンツール	224-0025	神奈川県伊勢原市石田200	0463-96-3471	0463-96-3472	橋本 文夫	東日本ブロック長	バンドソー用ブレード
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業本部	103-0023	東京都中央区日本橋本町2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021	03-3667-8022	平川 光典	営業推進部長	生命保険 共済保険
幹事	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村 弘美	代表取締役	切り板 孔あけ
会計	有修溶工(株)	340-0833	埼玉県八潮市西袋2番地	048-953-9895	048-953-9896	浪花 俊勝 滝沢 健一	代表取締役 営業部長	スタッド溶接工事 材料販売
監査	ダイニツカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	岡部 祥司 佐藤 健一	支店長 東京支店リーダー	全構協指定塗料 錆止め塗料
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	星野 傳弘 小嶋 清高	代表取締役 専務取締役	鋼材、建築資材 ボルト、ナット、仮設機材
	大陽日酸工業(株) 八王子支店	192-0032	東京都八王子市石川町2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	有川 貴之	支店長	高圧ガス
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉1-19 サトクラ曙橋ビル	03-3356-9071	03-3356-9354	遠藤 裕二 岡部 直樹	代表取締役 部長	情報通信システム NTT コミュ代理店
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231	04-2998-0570	小高 進一 佐藤 庄悟	部長 主任	ベースバック ハイベース
	フルサト工業(株) 神奈川営業所	242-0025	神奈川県大和市代官3-1-2	046-267-5424	046-268-1051	宇佐美 雅章	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑 守弘 阿部 孝典	代表取締役 課長	編鋼板専門 鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島 隆典 佐藤 智輝	代表取締役 副部長	印刷・原寸用フィルム 製造販売
	(株)瑞穂鋼建	277-0054	千葉県柏市増尾1-27-14	04-7173-6652	04-7173-8485	塚田 武治		ベースバック ファブラックス
	(株)山村	372-0022	群馬県伊勢崎市日乃出町644-1	0270-24-7712	0270-24-9791	内山 直哉	取締役営業部長	レーザー、プラズマ加工 ショット、開先加工



2020年(令和2年)

新春号

[第29号]

発行 東京鉄構工業協同組合
〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階
-0032 TEL: 03(5566)1595
FAX: 03(5566)1597

写真: 新宿から新国立を望む



「令和時代」
理事長 吉岡 晋吾

皆さん明けましておめでとうございます。昨年、新天皇の即位により年号が令和に代わってから初めての新年を迎えました。

昨年、日本国内では、4月に新年号令和に代わり、10月に消費税が10%に上り、また、台風19号などによって各地で甚大なダメージを受け今なお復興に追われているのが現状です。年末にかけて日本全体がなんともやりきれないような暗い状況になっている中、スポーツ界では、日本開催のラグビーワールドカップによりONE TEAM 日本代表が健闘し、ゴルフ

を確実にこなしていきたいと思っています。一方、鉄構業界においても、VR、AI等の新技術が検討され実用化されつつある中、そういった時代に取り残されないような前向きな努力をしつつ人材育成、工場内の整備を行い、働きやすい環境を整える必要があると思います。そして、東京という恵まれた市場での旬な情報を正確に全国に発信していくことが重要です。

では渋谷選手が全英女子オープンで優勝、バドミントン、卓球、柔道、レスリングなど日本選手の活躍により日本全体が盛り上がりました。今夏には、東京オリンピックが開催され、日本全体が更なる盛り上がりが見込まれるに違いありません。

業界の環境も、国内の景気や米中の貿易摩擦などの影響を受けながらもしばらくは好景気が続くと思われます。

令和元年は、快速列車のごとく日々の仕事に追われた一年で後を振り返る余裕がなかったかのようでした。

令和2年は、各駅停車のごとく余裕を持った計画を立てて実行し、しっかり足元を見据えて身の丈に合った仕事

まさしく我々鉄構業界がONE TEAMになるときです。そして、強い業界を作るために、日々精進する所存ですので皆さまの今までと変わらぬご協力をいただきたいと思います。

今年は、十二支の一番目のねずみ年です。令和初めての新年にふさわしく初心に帰って自分を見つめなおす一年にしていきたいと思っています。

(吉岡工業社長)

編集後記

今年はおリンピックイヤーです。これまで、スタジアムをはじめ関連施設の建設からインパウンド関連の建築など、私たちの業界も鉄骨加工で潤ったことは事実です。ここで冷静に東京オリンピックのビフォー・アフターについて考えてみたいと思います。オリンピック誘致が決

まる前までは廃業や倒産など暗いニュースが多かったように思います。仕事量が少なかったこともあり、鉄骨加工単価もトン16万円の価格も実際にありました。現在はどうでしょう。工場の稼働率はほぼ100%です。加工単価はトン20数万円が一般的です。従業員の高齢化や人手不足などマイナス要因はありますが、経営は順調に推移しているようです。

オリンピック・アフターはどうでしょう。都心の大規模再開発案件やビジネス

ビルの免震化など建て替え需要などが、当面続き鉄骨需要は大きくは減少しないと思われま。さらに災害の大規模化は追い風になるでしょう。しかし、それもいつまでも続くものではありません。事業を継続させていくには今ストックを生産設備の投資だけではなく女性従業員にも働きやすい職場環境(トイレのパウダールーム化等)の改善等に投資していくことが重要だと思。 (事務局長 加藤 哲夫)

組合理事役員

年頭のあいさつ

5年後のファブ業界



副理事長
経営近代化委員長
武田 忠義

10年ほど前であれば、鉄骨業界の需要がどのように推移し、市況の変動もおおよそではあるが、ある程度の予測が可能だったように思う。少なくとも中期的な計画を立案し、その目標に向かって行くことができたが、この数年は必ずしもそうではないことが多い。世界的な経済動向の変動も然り、昨年の高力ボルトの納期長期化も然り、頻発する自然災害も然りで、突発的に何が起きるか予測できないことのほうが多くなっているように思う。それだけ世界経済がよりグローバル化し、社会的な動きも目まぐるしく変革しているということなのだろうと認識している。

われわれの鉄構業界は、この6年は需要が500万トンの前後の水準で安定的に推移し、まずまずの需要環境にあった。今年度は東京五輪の関連施設や大型再開発の建設がピークアウトを迎え、高力ボルトの納期長期化による発注手控えもあり、やや落ち込むことが予想される。ただ、常盤橋や八重洲、麻布台、虎ノ門、品川などの超大型工事の地上部の工事展開は今秋以降となる。今秋以降はこのほか、名古屋の半導体工場や長崎の新交通システム、大阪のうめきたⅡ期や全国的にも物流倉庫、ホテルなどが相次いでまさに建設ラッシュが続くことになる。

五輪建設や高力ボルトの関係で発注を手控えていた新規の中小案件も一斉に始動するものと思われ、少なくとも

この5年先までは高水準の需要が継続すると取り沙汰されている。ただ、冒頭でも指摘したように、このストーリー通りに展開しないのが実態だ。そもそも図面承認や人手の不足などで建設業界の対応能力の問題で工程ずれが常態化している状況にあって、より繁忙となってもコラムや4面ボックス、ビルトHのほか、高力ボルトやワイヤーなどの資材供給が対応できるのか、輸送業者や現場溶接などの手配が可能なのか、さらに働き方改革関連法案の施行で、残業や休日出勤も規制されるという業界全体の動きのなかで適正に工期が遵守できるのかどうか大きな焦点となるのではないかと。

要は、さまざまな制約のなかで建設業界の処理能力の限界値があること、同時に鉄骨の供給もそれを超えて物件を消化できない現実を知ることになるのではないかと。となれば、「少なくともこの5年先までは高水準の需要が継続」の予測が外れ、ずるずると工程ずれが続くだけとなる。

業界の入職者不足、少子・高齢化という根本的な問題に真剣に取り組む時期にあるといえよう。もっと業界で働く関係者が適正な対価を得て、未来に向けて魅力ある産業にしていく必要がある。5年後のファブ業界のあるべき姿を目指して関係者が、真剣に論議すべき時期にあると考える。(叶産業会長)

忘れ物



副理事長
総務・広報委員長
前田 茂昭

階段を降りてきた友人がこちらにちょっと合図しながら引き返す。おや？引き返したと思ったらすぐに降りてきた。『いや申し訳ない。忘れ物したかと思ったら、持っていました(笑)』。

そして私の車に乗って移動しながらしばらく談笑していると『前田さん、ちょっと私の仕事用携帯を鳴らしてもらえますか？』と焦った顔の友人。ヴィーンと携帯のバイブ音。『ありました、ありました、忘れたかと思った(笑)』。

これ、私と同一歳の49歳の友人。まあ、この歳にもなるとこんなものなのかと鼻で笑っていたのだが、かくいう私も昨年はやらかした。

9月にセブ島に行った2泊目の夜、タクシーを降りて日本食レストランに到着。ちょっとスマホを取り出そうと思ったら無い。スマホが無い。

おそらくタクシーの車内に忘れた(落とした)のだろう。一緒だった友人達がタクシー会社にメール等々で問い合わせしてくれたが、結局、翌日までスマホが見つかることは無く、時間切れ帰国。さらに到着した成田空港は台風の影響で陸の孤島化。ここでも友人達が手分けしてスマホを駆使して帰る方法を探してくれたが、私はその間借りてきたネコ状態。その際にご迷惑をおかけた皆さんに、この場を借りてお詫び申し上げます。

翌日出社すると『社長の携帯に電話すると英語を喋る女性が出ます！』とちょっと騒ぎになっていましたが、特に実害は無し。

そして次はその3週間後、伊香保での会合に参加した際にまたやらかした。会合旅行から戻った翌日に気づいたのだが、今度は小銭入れが無い。どうやら部屋の金庫に忘れてきたような気がする。財布はしっかり金庫から取り出したのだが、紺色の小銭入れが金庫内の黒色と同化して気付かなかったようだ。小銭入れと言ってもクレジットカードや銀行カードが何枚も入っている。まずい。本当にまずい。青ざめた状態でホテルに電話してみると、『忘れ物として届いてます』とのこと。善良なホテルのスタッフの方々のおかげで翌日には無事小銭入れを受け取ることができた。こちらも辛うじて実害は無し。

東構塾が「第6期研修旅行」 藤木鉄工(新潟)東港工場を見学

東構塾(青野弘毅塾長)は3月2日、東構塾第6期研修旅行として、新潟県のSグレードファブ、藤木鉄工(熊倉吉一社長)の東港工場を見学した。

見学会には青野塾長ら塾生など23人が参加。同研修旅行は、第6期東構塾の集大成として、企画されたもの。

一行を出迎えた熊倉社長は、「この業界では一人勝ちはない。皆さんといろいろな情報を共有し、知恵を出し合って発展していきたい。じっくりと見学して頂き、忌憚のないご意見をいただきたい」とあいさつした。



藤木鉄工の担当者から会社概要や工場概要の説明を受けた後、4班に分かれて、第1工場から第5工場、プラスト工場などを見学。意見交換会では、参加者から①高い内製化率を維持するための対策や課題②進捗度の把握や製品管理など詳細な工程管理方法③冬季の溶接の余熱管理方法や夏の熱中症対策④外国人技能実習生の教育システム⑤図面の3次元化の現状とBIMの方向性——など活発な質疑が出された。

フェーズドアレイ検証委員会 テストピースを作成し、検証

当組合は10月16日、組合会議室で「(仮)鉄骨溶接部のフェーズドアレイ検査機器による検証委員会」を開催した。全国鉄構工業協会の鉄骨技術研究開発助成制度を活用し、今年度スタートした委員会で、吉岡理事長ら組合幹部のほか、共同で実証実験等を行って



いる埼玉県鉄構業協同組合とCIW検査業協会、機器メーカーのオリンパスから幹部や担当者が出席。また、コンサルタントとして中込忠男・信州大学名誉教授が参加した。

今回はテストピースの検証などを行った。

テストピースはきずの位置や形状などを指定して日本溶接技術センターに発注し、6体作成した。

今後はオリンパスと協力検査会社でフェーズドアレイと従来型UTのきずの見え方の違いなどを検証し、記録・結果を持ち寄る。

現在作成中の別のテストピースでも検証する計画としている。

地区会員名簿

東地区(26社) 地区長 (株)前田製作所 前田 茂昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	川岸工業 株式会社	H	10	富士工業 株式会社	M	19	株式会社 小久保鉄工	R
2	叶産業 株式会社	H	11	中央鋼材 株式会社	M	20	株式会社 長谷川工業	R
3	株式会社 市川スチールエンジニアリング	H	12	株式会社 日伸鉄工建設	M	21	株式会社 矢萩鉄工	未
4	株式会社 アイ・テック	M	13	中央ビルト工業 株式会社	M	22	株式会社 奥村鉄構	未
5	株式会社 飯田製作所	M	14	鈴木鉄工建設 株式会社	R	23	株式会社 ヤマダ工業	未
6	株式会社 前田製作所	M	15	有限会社 高市工業	R	24	有限会社 幸栄工業	未
7	吉岡工業 株式会社	M	16	株式会社 角鹿鉄工	R	25	津覇車両 株式会社	未
8	株式会社 中込工業所	M	17	三進建鉄 有限会社	R	26	エスイー鉄建 株式会社	未
9	株式会社 谷村製作所	M	18	株式会社 コイワ	R			

西地区(23社) 地区長 (有)坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	株式会社 矢嶋	H	9	井戸鉄建 株式会社	M	17	島崎工業 株式会社	R
2	東京建鉄 株式会社	H	10	株式会社 かしや建設工業	M	18	有限会社 天野鉄工所	R
3	松田鋼業 株式会社	H	11	株式会社 三侖鉄工	M	19	有限会社 山上建設工業	R
4	池田鉄工 株式会社	M	12	有限会社 坂爪建鉄工業	M	20	有限会社 修和鉄工	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	13	有限会社 金谷鉄工所	M	21	有限会社 石川鉄工	R
6	小島工業 株式会社	M	14	株式会社 小室鉄建	M	22	株式会社 帝都建工	未
7	株式会社 鎌建工業	M	15	株式会社 ヤマトミ	M	23	有限会社 大橋鉄工所	未
8	井上鉄工 株式会社	M	16	株式会社 酒多鉄工所	R			

開催③フェーズドアレー合同委員会の取り組み強化④担い手育成事業の取り組み⑤共済事業の取り組み強化など今年度計画の具体化について協議した。このうち地区会は10月頃の実施を決め、開催場所など準備を進めることになった。青年経営者委員会との合同涼会は9月の理事会後に行う予定とした。

吉岡理事長は冒頭のあいさつで「都内では五輪施設など世紀に残る工事に組み込まれているが、地元ファブが、何らかの形で参画できることが理想。その実績を後世に伝えることも今のわれわれの使命ではないか」と強調した。

◆7月理事会◆

□7月22日、於・組合会議室□

理事会では、①地区会の開催②担い手育成事業の取り組み③共済事業の取り組み強化など今年度計画の具体化を審議。このうち地区会の開催では、東地区が9月18日、中西地区会は8月27日にそれぞれ行い、協力会会員も参加して情報交換や交流を中心に実施することを決めた。また、共済事業ではとくに塗料販売の組合実績が低調であることから、代理店と調整しながら対応していくことを確認した。また、青年経営者委員会との合同涼会は9月の理事会後に行う予定とした。

吉岡理事長はあいさつで「東京は全国的にみても需要は旺盛で、組合員も仕事量はある程度、確保している状況にある。今後も組合員が相互で情報の共有を図り、協力しあいながら山積み

調整を図ってほしい」と強調した。

◆9月理事会◆

□9月24日、於・組合会議室□

理事会では、①共済事業の取り組み強化②災害時のBCP計画③共済事業の取り組み強化など今年度計画の具体化を審議した。今後の日程についても話し合い、1月15日に賀詞交歓会、3月19日に出張理事会とすることを決めた。

吉岡理事長は冒頭のあいさつで「仕事量もそうだが、高力ボルト問題もようやく落ち着きをみせ始めたようだ。このほど地区会を相次いで開催したが、合同地区会の開催も視野に、より組合の活性化を図りたい」と事業活動への協力を求めた。

◆10月理事会◆

□10月29日、於・組合会議室□

理事会の報告のなかで台風19号により、組合員1社が約1・2名の工場浸水に見舞われ、機械設備などに甚大な被害があったことを報告した。また、吉岡理事長と加藤哲夫事務局長が現地確認と見舞いに訪れたことも合わせて報告した。被害調査では組合員全社に被災状況調査アンケートを実施。その結果、先の甚大な被害を受けた1社以外に、工場屋根の損傷など3社が「被害あり」と回答している。

審議事項では、BCP(事業継続計画)の策定・推進なども協議。今回の被災を踏まえ「今後も同様、あるいは想定を上回る自然災害が発生する可能性が

ある」として災害時の企業対応の重要性のほか、保険関係の整備、被災ファブへの設備供与(中古含む)、仕事のバックアップ、組合員の緊急連絡網の活用など具体的な対応策を協議した。

◆11月理事会◆

□11月25日、於・組合会議室□

理事会では、①共済事業の取り組み強化②2020年賀詞交歓会の実施③リポート東構協第29号の発行④出張理事会などを審議。このうち、2020年賀詞交歓会は来年1月15日にアルカディア市ヶ谷で開催。スケジュールや司会者や来賓紹介等の役割担当のほか、招待者などを決めた。また、出張理事会は来年3月19日に兵庫県の溶接機関連事業所などを視察することにした。

◆12月理事会◆

□12月16日、於・組合会議室□

理事会では、全構協、同関東支部のほか、組合の各委員会などの事業活動と今後の予定を報告。審議事項では①共済事業の取り組み強化②2020年賀詞交歓会の実施③リポート東構協第29号の発行④出張理事会などを協議した。このうち、出張理事会は来年3月19日に兵庫県のダイヘン・ロボット工場を視察することを決めた。具体的な日程や企画内容は今後、詰める。また、「リポート東構協」に関して原稿締切日を決め、2020年賀詞交歓会までに制作、交歓会会場の配布を行う予定とした。

約20人を集めて東地区会を開催
事業継続計画などの重要性を再確認

当組合の東地区(地区長=前田茂昭・前田製作所社長)は9月18日、墨田区の第一両国ホテルで組合員や協力会メンバーら約20人を集めて地区会を開催した。

前田地区長はあいさつで「地区会は地域的に密接した組合員が交流を図るところにメリットがある。業界や組合

活動の現状など相互で情報を交換して有意義な会としたい」と述べた。また、吉岡理事長も「今回、首都圏を直撃した台風15号は工場損傷や停電に伴う操業休止など大きな影響を与えた。こうした時こそ、関連団体や協力会など全員が心をひとつに協力しあう体制が大切。組合発展のため、積極的な活動推進をお願いしたい」と来賓あいさつを述べた。引き続き行われた各社の現状報告では、台風15号による被害報告

に話題が集中。今回の被害を教訓に、改めて事業継続計画(BCP)や相互支援活動の重要性を確認した。



とはいえ9月だけで2度の重大な忘れ物である。私はへこんだ。

今まで私は身の回りの小物は茶系やネイビー、黒などの渋めの色が好みだったが、これからは忘れ物対策として赤白金銀とか、落とすと光るとか、嫌でも目立つ色にした方が良いかな。忘れ物(未遂)連発の友人を鼻で笑っていたからバチが当たったのだろうか。50歳前でこれだから、この先が本当に思いやられる。(前田製作所社長)

人生 50 年



副理事長
教育・技術委員長
Mグレード部会 部会長
谷村 忠行

平成5年に大学を卒業して、ゼネコン(建築現場管理)に入社し5年間お世話になりました。

その後、弊社(建築鉄骨製造業)に入社して早20年になりました。

いまだにゼネコンのユニフォームを着て真っ黒になって、現場管理をしていた頃の夢を見ます。それだけ、厳しく熱い5年間でした。

九州支店に3年、東京支店文化服装学園200億円の現場に2年(生コンと掃除担当)。資格も取らせて頂き、1回目の結婚もしました。

弊社に入社したのは平成10年、船橋工場での現場管理勤務。いきなり5、6現場を担当しました。

1年間、現場担当者として、職人と現場廻りをしました。溶接作業で目が焼けて、涙が止まらない日も何回もありました。兄弟で排水ピットのグレーチング敷きをしたことも思い出します。その頃は毎日がとても新鮮で、充実していました。

親父に何も聞かされず、現場に行けと言われ、現場に着いたら、現場所長が机を叩き、いきなり怒鳴られました。

どうして怒られているかの理由もわからずに。結局、親父の肩代わりでした。

会社に帰ると、怒られるのも仕事だと言われ、釈然としなかったこともありましたが、そんな親父も一昨年亡くなりました。

2年目には東京の本社工場勤務になり、主に営業がメインになりました。仕事がなかったからです。

大学の先輩や元職場のゼネコンは勿論、会社の近くの現場をよく飛び込んだものです。

有難いことに、いまだにその頃の現場所長との付き合いもあります。

親から紹介されたお客様は皆無でしたが、根の生えた会社を先代方が築きあげて頂いたことで仕事が受注できたことに感謝しています。

時が経つにつれ、100坪しかない墨田区の工場で1m1万の手摺をいつまで造るのかと、よく叔父と喧嘩しました。

生産性のある工場へ転機と希望を考えるようになり、それが後に、船橋工場のヤード増設と1次加工ラインの設備投資に繋がりました。

30台半ばで始めたゴルフ。なかなか上達はしませんが、健康第一を念頭に継続していきたいと思っています。

チャンスの後にピンチがあり、ピンチの後にチャンスあり。いじけない、諦めない。ラウンドはちょっとした5時間ドラマです。

2022年まで3年間は沢山仕事もありそうだが、その後の10年を睨んで日々精進していきたい。

人生50年。

昔は疫病や戦争で50歳まで生きられなかった。そう、これからの時間は付録みたいなものです。

その付録も充実した付録にしていきたいと考えています。

今年50歳、残り半生を、穏やかにゴルフを楽しみたいものです。

今後ともご指導よろしく申し上げます。(谷村製作所会長)

「Google マップ」



理事
青年経営者委員会幹事長
松田 一郎

「Google マップ」が好きだ。最も好きなソフトウェアが地図とは奇妙に感じる向きもあるかもしれない。しかし使い込んでいくとこれほど面白いものは無いと感じる。

現在、誰もが利用する「Google マップ」とは正確にはGoogle社が2004年に「Where 2 Technologies」を買収し、翌年にベータ版としてサービスを開始したウェブサービスだ。

たとえばこれを使うと平壤の街でもフライトシュミレーターのように衛星画像を俯瞰し飛び廻れる。現在は搭載されているが、10年ほど前はオフラインマップの機能がまだ無かった。また海外でのデータローミングもハードルが高かった。そこで日本で事前にパソコンで外部のソフトから「Google マップ」のデータをダウンロードし、ホーチミンの街の地図データをすべてスマホに収め、更にサードパーティ製アプリを使い表示した。そのおかげで初めて訪れた言葉もわからない街でも一人タクシーに乗り素早く自由に動き廻ることが出来た。

困ったこともある。マカオから中国に越境した時は現在地が変化し数百mずれた場所に飛ばされ道に迷った。後で調べてみると以下のようなことが



▲日本を頂点に置いた地球儀

判った。

・「中華人民共和国国内における地理情報データの利用は、安全保障上の理由により、国务院の下位機関である国家測量製図地理情報局から特別な許可を得た者のみに制限されている。その結果、多くの地図アプリケーションにおいて、中国国内の道路地図における道路と衛星地図情報が一致せず、オープンストリートマップなどのクラウドソーシングを利用した地図作成に関する活動が、非合法状態となっている。」※1

・「韓国と中国の地図データ問題：これらの国は、安全保障上の問題を理由に地図情報の自国外への提供を禁止している。このため、Googleがこれらの国からの地図データの提供を受けていない(受けられない)。自国内ではGoogleとは異なるデータや測地系を使っているため、互換性が維持できない。」※2

こんなことに気付くのも「Googleマップ」の密かな楽しみとなっている。「Googleの使命は、世界中の情報を整理し、世界中の人がアクセスできて使えるようにすることです。」※3と言う。全く素晴らしいと言うほか無い。

(松田鋼業社長)

参考：※1「中国における地理的データの制限」 ※2「Googleマップ」 ※3「概要 - Google」

「ビフォーアフター」



理事

池田 和隆

弊社相模原工場を平成2年に増改築してから、約30年が経過し、かねてからの懸案事項でありました2階の更衣室やトイレの改修工事に着手しました。かねてからというのが、陽当たりのよいところに、まったく使用していない浴室があり、その浴室によって他の部屋への陽の光が遮られ、加えて更衣室やトイレの配置が悪く、特に男子トイレ、女子トイレ、女子更衣室に陽の光が入らず、照明のスイッチを入れないと、真っ暗という状態でした。また、男子トイレの中の



ブースの寸法がとても狭く、便座に座ると顔の目の前に壁が迫り、窮屈でとてもリラックスできる環境ではありませんでした。

た。さらに当時施工した電気業者の施工が悪く、女子更衣室の換気扇を動作させるには、照明のスイッチを入れてから、換気扇スイッチを入れないと作動しないという、めちゃくちゃな状態で、かなり残念な仕様となっていたのです。

改修後の原案を基に設計事務所が設計図を作図し、幾度かの打ち合わせと見積を経て、着工。工事期間中は2階のトイレが使用できないという不便がありました。社員の協力もあって、ようやく改修工事が完成しました。ロフトを計画しましたのでロフトの骨組みには、軽量鉄骨を採用し、2階の工場から加工した材料を運搬して、人力にて鉄骨建方、調整、本締めを行いました。こういったことは本職なので本領を発揮、社員も手伝ってくれました。

おかげさまで、見違えるような更衣室、トイレ、休憩室が完成しました。特に女子トイレは、女優照明付きの洗面台とブースをそれぞれ2台設置し、女子更衣室から女子トイレに直接出入りができるような動線計画とし、女性社員にやさしいプランとしました。少しこだわったのが、女子休憩室で更衣室との間仕切りにコルビジェ風の特注障子(写真参考)を設け、障子をしめていても、更衣室が明るくように配慮しました。今回は明るく、リラックスできる空間をコンセプトに設計しましたので、いいものができたと満足して

連のサポート体制の強化、会員訪問活動の継続、組合員に役立つ情報の発信などの事業に取り組む。



新たな検査手法の確立・研究を

第33回通常総会を開催

当組合は5月22日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で第33回通常総会を開催した。

吉岡理事長はあいさつで「東京は仕事量が多く、利益にそのまま結びつけたいところだが、人手の確保や資材・

運送の手配、高力ボルトの調達難など課題も多く、思惑通りにならないのが実態」と述べた後、「今年度はフェーズドアレイUT法による溶接部の検査手法を確立させるための研究を埼玉の鉄構組合と共同で推進していく」と述べ、協力を求めた。

総会では全議案を滞りなく承認。今年度事業計画ではフェーズドアレイUT法の研究推進、工場認定性能評価関

理事役員会報告

◆1月理事会◆

□1月15日、アルカディア市ヶ谷□
当日の理事会での審議事項では①組合員間の取引ルール②各委員会・部会の事業計画③フルハーネス新規格の講習会などについて協議した。このうち「フルハーネス新規格の講習会」は、3月以降に開催する予定とし、会場の確保を急ぐことにした。

引き続き、同所で組合員、協力会、来賓など約50人を集めて平成31年度賀詞交歓会を開催した。

吉岡理事長は「当理事会の各社状況報告によると100%、あるいはそれ以上の稼働率となっている。仕事量が多いことは嬉しいが、材料や資材などの手配に悪戦苦闘しているのが実態で、利益も思ったほど確保できていない。ネットワークを活用し、迅速に各社の山積みが分かるように組合運営をしていきたい」と協力を呼びかけた。

信州大学の中込忠男名誉教授、東京足立鉄骨工業会の染矢利幸会長(矢翔社長)らの来賓あいさつ後、鋼構造出版の田中貴士社長の乾杯の発声で祝宴がスタートした。

◆2月理事会◆

□2月19日、於・組合会議室□
理事会では、継続審議となっていた「組合員間の取引ルール」を協議、組合HPからフォーマットを取り出して全組合員が活用できるシステムの運用を決めた。「組合員間の取引ルール」

は、口頭による内容確認や契約ではなく、書面による相互確認でトラブルを回避しようとするもの。内容的に「製作依頼確認書」として製作部位、工場加工、現場工事、支払い条件など各項目の細目を相互間で確認することとしている。フォーマットはエクセル形式で、新たな追加項目など運用そのものは各企業に委ねる。

また、来年度事業活動を踏まえ、各委員会や部会の予算・新規事業について協議したほか、「フルハーネス新規格の講習会」は、会場確保の関係から来年度実施に決めた。

◆3月理事会◆

□3月26日、於・組合会議室□
理事会では、5月開催の第33回通常総会に向けて19年度事業計画・予算(案)を審議。事業計画のなかで全国鉄構工業協会の鉄骨技術研究開発助成制度(会員応募型)の採択を受けて議案書に「フェーズドアレイUT法による溶接部の検査手法を確立させるための研究を埼玉県鉄構業協同組合と共同で推進し、今年度は試験体を作成し、実証実験を行う」を盛り込む案が示され、そのための事業費として100万円の予算を承認した。

総会当日の日程は理事会、講演会、懇親会も併催し、このうち講演会についてはテーマを「働き方改革」とし、講師の選定を急ぐことにした。また、鉄骨管理技術者受験準備講習会の開催では会場の収容人数の関係から1級鉄骨管理技術者向けは9月22日、2級は翌23日に開催することになった。さらに國谷製作所(埼玉県川口市)

の新規入会を審議、これを承認した。

◆4月理事会◆

□4月23日、於・組合会議室□
理事会では、5月22日開催の第33回通常総会に向けて19年度事業計画・予算(案)を審議。司会進行など役割分担や来賓参加者を決定した。また、当日は理事会、講演会、懇親会も併催、スケジュールを決めたほか、講演会にはテーマを「働き方改革」とし、講師の選定を急ぐことにした。また、鉄骨管理技術者受験準備講習会の開催はすでに1級鉄骨管理技術者向けは9月22日、2級は翌23日に開催が決まっているが、募集はタイミングをみて案内することになった。

◆5月理事会◆

□5月22日、アルカディア市ヶ谷□
理事会では、全構協、同関東支部のほか、組合の各委員会、部会、青年経営者委員会、東構塾などの事業活動と今後の予定を報告、さらに当日開催する第33回通常総会の議案書、役割担当などを最終確認した。

また、新規加入組合員としてヤマダ工業(墨田区東向島)の入会を審議、了承した。同社の入会で東構協の組合員数は49社となった。

◆6月理事会◆

□6月24日、於・組合会議室□
理事会では、全構協、同関東支部のほか、組合の各委員会、部会、青年経営者委員会、東構塾などの事業活動と今後の予定を報告。審議事項では、①会員の工場訪問の実施計画②地区会の

八王子で中西地区会を開催 組合のメリットを全員で享受を

当組合の西地区(地区長=坂爪幸男・坂爪建鉄工業社長)は8月27日、八王子市の京王プラザホテルで組合員や協力会メンバーら約20人を集めて地区会を開いた。

坂爪地区長はあいさつで「地区会の交流を通じて組合のメリットを全員で享受してほしい」と述べ、組合活動への理解を求めた。また、吉岡理事長も「地元の仕事の協力、情報共有など地区会の果たす意義は大きい。積極的な活動推進をお願いしたい」と来賓あいさつを述べた。



協力会メンバーの企業PR、組合事業の活動報告などが行われた。

寄稿

グリーンボーセイ速乾と水性グリーンボーセイ速乾について

大日本塗料(株)

鉄骨製作で塗装作業は最終工程のため、製作工期の影響も受けます。現場対応では、形状が複雑な部位は、素地調整不足も想定されます。そのため、さび止め塗料は、乾燥性や付着性など幅広い施工性が求められます。

大日本塗料では古くから全構協様並びに各支部様からご意見をいただきながら製品開発・向上に努めてきました。

まずグリーンボーセイ速乾はJIS K 5674 1種取得商品です。特徴としては優れた防錆力を有しながら非常に豊富な色のラインナップとなっております。

従来からあります赤さび色は当然として、グレー色の種類が豊富にあります。具体的には「グレー」、「ダークグ

レー」、「HKグレー」、「N4グレー」、「MKダークグレー」や黒色などをそろえております。また、ご希望の色に合わせた調色も淡彩系の色限定ではありませんが対応可能であり、JIS品としてご提供させていただけます。

今後もグリーンボーセイ速乾は皆様のご意見をいただきながら、より良い商品にしていきたいと考えておりますので、是非ご購入の程、宜しくお願致します。

次に水性グリーンボーセイ速乾についてですが、JIS K 5674 2種取得商品です。この商品を開発するまでに大日本塗料は時代に合った商品開発を非常に長期にわたって進めておりました。

1990年代後半にはシックハウス症候群、2000年代には光化学オキシダントによる大気汚染などが社会問題として大きく取り上げられました。これらの問題に対して、大日本塗料は人体や

地球環境へ負荷の少ない塗料を開発するべく多数の商品を上市していきました。

しかし、冒頭で記載させていただいた通り、さび止め塗料は乾燥性や付着性など幅広い施工性が求められます。特に鋼材素地に付着され、粘性を有した油成分の影響により、塗装後に剥離してしまうことが一番の問題点でした。

そのため、大日本塗料は防錆力もさることながら、この油面適正について実験や各鉄工所様のご協力のもと試験施工を繰り返した結果、水性グリーンボーセイ速乾を自信を持って上市致しました。上市后、様々なお客様にご使用いただいておりますので、従来からある油性塗料まではいかないものの、非常に優れた油面適正・乾燥性を含めた作業性を有しておりますので、是非ご購入の程、よろしくお願い致します。



人と地球に優しく、安心です。DNTのさび止めペイントシリーズ(色見本)

商品名	色名	色相	色名	色相	色名	色相
グリーンズボセイ 鋼骨下塗り(防錆防汚型)	赤さび色	赤	白	白	グレー	
	赤さび色	赤	白	白	グレー	
グリーンボーセイ 鋼骨(一般防錆型)	ダークグレー	黒	黒	黒	HKグレー	
	HKグレー	黒	黒	黒	MKダークグレー	
グリーンボーセイ 鋼骨(防錆防汚型)	赤さび色	赤	白	白	グレー	HKダークグレー
	ダークグレー	黒	黒	黒	グレー	
※赤系 鋼・クロムフリーさび止めペイント JIS K 5674 2種	赤さび色	赤	グレー			
※赤系 鋼・クロムフリーさび止めペイント JIS K 5674 1種	赤さび色	赤	グレー			
※赤さび止めペイント	グレー	白				
	グレー	白				
T2プライマー AF JIS K 5621 2種	赤さび色	グレー	HKグレー			

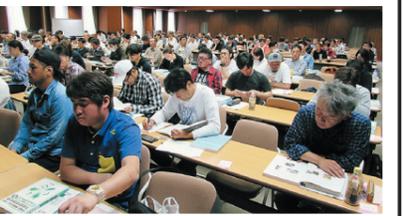
DNT 大日本塗料株式会社

鉄骨製作管理技術者講習会を開催 1級215人、2級151人が受講

当組合は9月22、23の両日、東京・千代田区の連合会館で鉄骨製作管理技術者講習会を開催した。鉄骨製作管理技術者1級215人、同2級に151人が受講した。

講師は、鉄骨製作管理技術者1級が羽石良一氏(建築鉄骨構造技術支援協会常務理事)、同2級は大塚英郎氏(大林組東京本店建築事業部品質管理部鉄骨品質管理課副部長)が担当。午前中はテキストとOHPを使用しながら建築法規一般、鉄骨構造、品質管理、鉄骨加工、安全管理など試験問題の概要

や要点などを解説、午後からは模擬試験を実施した。



います。休憩室やトイレにそこまでこだわらなくてもと思う方もいらっしゃると思いますが、いつも使用する休憩室やトイレが使いやすいと社員のモチベーションもアップし、仕事にも反映すると私は考えます。次は、事務所のビフォーアフターを計画しています。

今回の相模原工場ビフォーアフターに興味にある方は、お近くにいらっしゃる際、お気軽にお越しくださいませ。

(池田鉄工社長)

求人募集について



理事 森 芳恒

今年はちょっと真面目に求人募集について今感じていることをお話ししたいと思います。

今に始まったことではないですが、求人難が続いています。外国人材を採用し始めて今年で3年目に入り、はじめは全体で2人の採用で日本人10人に対して2人ほどのお手伝いからスタートしましたが、あっという間に日本人3人外国人6人になり、今年は新たに2人の外国人が入社予定です。

もちろん、日本人の採用をやめたわけではなく日本人が辞め続けています。

職場に魅力がないのか、待遇が悪いのか、数少ない応募状況を見てみると最近特に感じるのが責任のある仕事はしたくない。自分で学んだり、技術を身に付けるのではなくただ単に個人に追及される責任がなく、残業はなくて完全週休2日制であることが考えの根底にあり、給料は安くても当然。このような応募者が大変多くなってきています。

この時点で私たちの求人条件は現代の求職者の正反対にあることに気づ

き、求人票を書き直すべきなのかもしれない。しかし、外国人は従来の日本人の労働者にとって代わるのかといえば必ずしもそうではなく何年間か限られた時間で働くことを前提に少しでも金額を稼ぐために残業もするし、休日出勤も進んでするのです。自分の母国に帰国後に鉄骨の加工技術を役立たせるためではないと理解しなければなりません。ですから、外国人労働者が現在の労働者にとって代わるわけではないのです。

では、どうすればいいのか、それは現代の求職者に合わせた労働条件を整えたうえで募集を行い、この応募者の中から仕事をやってみたら面白かった、充実感を得られたと感じてもらい、将来の鉄骨鍛冶職人を育てるしかないと感じています。

今年は、求人票を新しく条件を変えてまずたくさんの方の応募を受け付け、時としては多くの応募者を採用して今後の体制作りの基礎を固めていきたいと考えています。なぜなら応募者ゼロでは何をしようにも始まりませんからね。現代の職に関する考え方はものすごく急激に変わってきていると感じている今日この頃です。

(日本鉄構建設工業社長)

「やるか、やらないか」



理事 小島 昌夫

所属する団体で行う事業について会議をしていると「出来る、出来ない」でなかなか議論が進まないことがあります。「人が居ないから」「若くて参加する人が少ないから」といった理由から今年は中止にしようか?団体としての参加を取りやめようか?といった意見も多く出てきます。

出来ない理由を並べたらきりがなく、やめることは簡単です。

しかし、何もしなければ、当然のことながら何も生まれません。

「出来る、出来ない」だと議論が堂々巡りで中々前に進みません。「やる」と決めてしまえば実現のために「どうすればよいか」を考えて次のステップに進めます。

何でも共通しますが、何か始めたり、事業を行ったりするには沢山のエネルギーを使います。その経験から良くも悪くも沢山の学びがあり、見聞も広がり自己の成長に繋がります。

このような行動こそが事業所の発展、さらには地域の活性化に繋がるのだと信じています。

(小島工業社長)

『息子』



理事 金本 貴範

息子がもうすぐ2歳になります。先月息子を抱っこしたら左肩を痛めてしまって1か月経ちます。先日、また抱っこをしたら軽いぎっくり腰になってしまいました。運動不足が露呈してしまって大変恥ずかしいです。若い頃はニッカポッカを履いて建て方など現場にバリバリ出ていましたので、いくら食べても太りもせず、いくらお酒を飲んでも二日酔いにならず仕事に出ていましたが、ここ数年は100%事務仕事になってしまい、自宅と仕事も歩いて5分もかからないので完全な運動不足に陥っています。

好きなゴルフも一昨年は数十回行きましたけど、昨年は大変仕事も忙しくトラブル等の火消し役に手が回ってしまい10回程度に留まっています。今は子供と仕事でいっぱいなお酒



のお付き合いとゴルフは極力抑えて、家族に見放されないように邁進しています。

現在オリンピックに向けて製作や現場があちこちで佳境を迎えています。弊社も微力ながらスタジアムの改修工事で観客席の車いすのためのバリアフリー工事に携わっています。競技場1周分ありますので大変な物量があり工程通り行く心配ですが完成してオリンピックに弊社の鉄骨が使われたのならば、将来息子に胸を張って自慢してやろうかと思っています。息子が4代目として会社を継ぐか分かりませんが、私の年代では次回の日本開催は見られないかもしれません。数十年後の次回日本開催時も社会貢献の一環としてオリンピック関連鉄骨工事を是非弊社次世代で仕事をしてほしいものです。

(日伸鉄工建設常務取締役)

新しい時代の新しいヒーローに期待！



理事代理

村木 晃次

昨年は組合役員の皆様をはじめ、関係者の皆様には大変お世話になりました。本年もより一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

さて、昨年は30年ぶりに平成から令和へと元号が変わり新しい時代がスタート致しました。

経済面では、10月1日より消費税が8%から10%へ引き上げられ、軽減税率を適用しましたが「イートイン脱税」やまたその取締りをする第三者を「イートインポリス」と呼び一部で混乱もありました。

環境面では、災害の怖さを改めて認識し、備えの重要性を再認識する年でもありました。特に台風15号が千葉県を中心に、さらに19号が関東甲信越・東北と広範囲にわたり甚大な被害をもたらしました。この災害で被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、スポーツでは、野球界でのイチロー選手の引退やレスリング吉田沙織選手の引退など各界のレジェンドが多くの記録や功績を残していきましたが、テニスで全豪オープン優勝した大阪なおみ選手の活躍、ゴルフでは20歳で黄金世代にあたる渋野選手が42年ぶりにメジャータイトルの全英女子オープンで優勝し、たくさんのニューヒーローが誕生もしました。

またラグビーワールドカップでは、自国開催で初のベスト8と飛躍を遂げ「ワンチーム」で挑む強さとたくさんの感動と希望を与えてくれました。

今年、1964年以来56年ぶり2回目となる自国での第32回夏季オリンピックの開催があります。

オリンピック選手にもわれわれ建設業界においても高齢化社会に活力をもたらす若手やニューヒーローが活躍し感動を与えてくれることを期待しています。

歴史は過去、現在、未来から成立し、現在、抱える課題は過去の経験から学び未来に繋げていくことの繰り返しだと認識しています。その意味では諸先輩が築いた歴史を学ぶ重要性を認識しています。自分にも活も入れて今年もいい歳を重ねたいと思います。

(アイ・テック営業部次長)

では、原寸検査または中間検査が重要になると指摘し、「製品が完成する前にファブの工場を实地視察して鉄骨が要領書に準じて製作されているか、工場内の全体的な仕事の流れをチェックする必要がある。ここがしっかりとしていなければならない」と強調した。



第9回「かぜのかい」

青経委と類設計室が合同勉強会

当組合の青年経営者委員会（幹事長＝松田一朗・松田鋼業社長）と類設計室の構造設計者らによる合同勉強会、「かぜのかい」が1月18日、東京都大田区の類設計室東京事務所で行われた。今回が9回目の開催となる。特別参加のゼネコン関係者らを含め32人が出席、東構塾塾長の青野弘毅氏（元那須ストラクチャー工業）を講師に迎え、「鉄骨製作工程と管理のポイント」

などを学んだ。青野氏はS造、地上10階、鉄骨量約1000tの事務所ビルをHグレードファブが受注したという想定の下、納期内に要求品質を満たす製品を仕上げるための管理ポイントとして鉄骨製作工程と設計計画内容の指示・決定手順との関わりを説明。材料発注明細の確定や十分な加工日数の確保に支障をきたさないよう、元請企業と約3ヵ月間にわたって工作図の詳細を詰めていくなかで、どの時期にどういった事項が決定されなければならないかを詳細に解説した。また、工程ごとの受け入れ検査

最新テクノロジーで建設業がどう変わるのか



理事代理

小室 健太

最近ではAI,5G,MaaS,3Dプリンター,VR,AR,ブロックチェーン・・・

聞きなれない言葉もたくさんありますが、これらのテクノロジーの技術は確実に我々の生活をここ10年以内に画期的に変えてくれると思います。今年のモーターショーでトヨタは初めて量産型の車の出展をしませんでした。トヨタは自動車屋をやめるそうです。

色々な所で色々な革命が起こっています。車は所有する時代から共有する時代が変わっていきます。天下のトヨタでさえ、新たな生き残りの方法を模索している状態です。

我々鉄骨屋は果たしてこのままでいいのでしょうか。

きっといつか、3DCADで作成された図面データが建設現場に送信され、その場で3Dプリンターを使い、鉄骨の柱が成形されていき、そのままクレーンで吊られ建てられていく、こんな工場レスな未来が来るかもしれません。

恐ろしいですね。我々の食い扶持が無くなってしまいます。

ここまでのことが近い将来出てくるかはわかりませんが、いつかこんなことが起こっても不思議じゃない、テクノロジーの技術にはそう思わせてくれるワクワクが沢山あります。

身近な話題で言うと、某鉄骨屋とNTTドコモと一緒に開発したMRデバイスを使い、梁の完成形（どこにガセットが取り付けか等）を見ながら製作ができるというゴーグル。近未来な予感を感じさせます

これは製作誤差も減りそうです。色々な形で建設業も、世の中も変わってきています。

私たちもそろそろ重い腰を上げ、業界全体で改革を進めていかないといけないのではないのでしょうか。(小室鉄建)

天災か？人災か？



監査

中込 千秋

令和元年が過ぎた。昨年の出来事の中で最も印象的だったのは「One・Team」として31名の選手中、リーチ・マイケル選手をはじめ15人(そのうち日本国籍5人)の外国人選手が他の日本人選手と一緒に「日本の日の丸」を背負い、我が国のため、世界の強豪国と互角以上に戦ったラグビーのワールドカップでの日本チームの大活躍ではなかったか。

次に私達の身近で、大きな自然災害の「災」があった。台風15号と19号が、立て続けに千葉地方全域を襲い、今も住宅の屋根にはブルーシートがかかりっぱなしで、施工業者が足りず、復興には2・3年かかるという。水や電気のライフ・ラインは1週間～10

日位駄目だったとか、ゴルフ練習場の柱が倒壊し、隣家屋根を突き破ったとか、被害は計り知れないほど甚大であった。

幸いにも千葉北西部(白井市)にある私どもの工場は壁のスレートが風で1枚位剥がれた程度で平常通りの工場稼働にはほとんど問題はなかった。ただ、千葉南部から通勤している従業員もおり、電気や水道工事が遅れ「大変だった」という。

大気汚染による世界的な温暖化の弊害からか、これからは台風が数多く来るであろう。台風により雨の被害もたらず川の氾濫、風による電柱等の倒壊……、日本中、何処の地域でも起こり得る。本社のある江戸川区の南部で、荒川の支流の中川土手には、かつてキティ台風の時とか、戦後からの大きな台風時の洪水の水嵩のラインが印字されている。もちろん、今の堤防はその高さを大幅に上回るガッチリとしたコンクリート躯体となっている。

台風被害を含めさらに30年以内に発生するといわれるマグニチュード「7クラス」の首都直下型地震の備えに本腰を入れなければならない。今の世代、次の世代の人達のために。国や地方の自治体のインフラ整備や社会資本の充実、福祉とか防衛とかそれに全く同等またはそれ以上の、財政投入をすべき分野と思われる。同時に各人、各家庭も身近に防備出来ることはすべて行う、という自助努力も必要と思われる。日本が自然災害に対する防備で世界の先進国となることを期待して筆を置きたい。(中込工業所社長)

「働き方改革」で講習会 長時間労働の是正など学ぶ

当組合は5月22日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で「中小企業の働き方改革」をテーマに講習会を開催した。講師は税理士法人・吉田土会

計の働き方改革課リーダーの塩澤史彦氏が担当した。

塩澤リーダーは具体的な事例として①『勤怠管理システムの相談』②『見積もりから会計、作業が膨大』③『IT担当者の不在・相談相手の不在』――などの相談と問題を紹介した。

